

# なぜホラー映画を楽しめるのか

—プロテクティブ・フレームと好奇心の役割—

○向居 暁<sup>1</sup>・井 小林美結菜<sup>2</sup>・辻 翔瑛<sup>3</sup>

(<sup>1</sup> 県立広島大学地域創生学部・<sup>2</sup> もみじ銀行・<sup>3</sup> 県立広島大学大学院人間文化学専攻)

## 問題と目的

私たちは恐怖の対象を回避しながらも、ホラー映画のような恐怖に自発的に接近し楽しむ行動も示す。このような「怖いもの見たさ」を説明する枠組みとして、娯楽状況におけるプロテクティブ・フレーム (PF) が指摘されてきた (Apter, 1984)。PF が認識されると、恐怖と自己の間に心理的距離が生じ、快の経験が可能になる (e.g., Andrade & Cohen, 2007)。一方、近年の好奇心研究 (e.g., Kashdan et al., 2018) は、未知・不確実な対象への志向が接近行動を駆動しうることを仮定しており (e.g., Yagi et al., 2023), 中でもスリルを求める傾向が恐怖対象への接近と関連することが指摘されている (e.g., 小林・向居, 2024)。

本研究は、文化的文脈 (刺激の身近さ) が異なる邦画 (和ホラー) と洋画 (洋ホラー) を比較し、PF の認識と多様な好奇心 (5DCR), および、ホラー映画への嗜好性が、ホラー動画の視聴同意と視聴後の感情 (EACL) に与える影響を検討した。

## 方法

**調査対象者** 日本在住の 18~40 歳の 170 名 (男性 61 名, 女性 116 名, 不明 3 名) を分析対象者とした。平均年齢は 21.89 歳 ( $SD=4.71$ ) であった。

**手続き** 参加者を動画説明文 (PF あり・なし) ×ホラー動画の種類 (和・洋ホラー) のいずれかの条件に分類した。PF あり群では、動画の説明文において安全性や実験状況を強調することで、PF の認識を可能とする操作がなされた。和ホラーは邦画 (『リング』) を、洋ホラーはそのリメイク版をベースに作成した 2 分未満の動画であった。

説明文提示後に視聴同意 (同意・不同意) を尋ね、動画視聴後に感情・覚醒チェックリスト (EACL: 織田他, 2015) で感情を評定した。また、ホラー嗜好性 (和・洋), 日本語版改訂好奇心 5 次元尺度 (5DCR: 西川, 2020), 日本語版 HEMA 尺度 (浅野他, 2014) により個人差指標も測定した。

分析には、R 4.3.2 における stats パッケージ (R Core Team, 2023) を用い、AIC に基づくステップワイズでモデル選択した。

## 結果と考察

説明文提示後の視聴同意について、2 値ロジスティック回帰分析を実施した結果、交互作用なしのモデルが最良 ( $AIC=131.12$ ,  $Pseudo-R^2=.163$ ) で、5DCR のスリル探求が正の関連 ( $OR=3.03^{***}$ ), 探究の喜びが負の関連 ( $OR=0.57^*$ ) を示した。つまり、視聴同意は、PF 提示や刺激特性よりもスリルを求める個人の接近動機に強く規定され、知的側面の好奇心は同意を抑制することが示唆された。

ホラー動画視聴後の感情について、重回帰分析を実施した結果、「恐怖」では交互作用なしモデルが最良 ( $AIC=358.36$ ,  $R^2=.089$ ) で、公然: 社会的好奇心 ( $\beta=0.169^*$ ) とストレス耐性 ( $\beta=0.164^*$ ) が正の関連、PF 提示 ( $\beta=-0.16^*$ ) が負の関連を示したことから、恐怖が PF により緩和されるという理論的予測と整合的であった。

続いて、「喜び」では交互作用を含むモデルが最良 ( $AIC=68.23$ ,  $R^2=.400$ ) で、主効果としてスリル探求 ( $\beta=.072^*$ ), ストレス耐性 ( $\beta=.058^*$ ), 洋ホラー嗜好性 ( $\beta=.090^*$ ) が有意であった。また、「身近さ (和・洋) ×和ホラー嗜好性」の交互作用 ( $\beta=.067^*$ ) が有意で、単純傾斜検定の結果、和ホラー嗜好性が低いほど、洋ホラーで喜びが低下することがわかった。さらに、「PF ×和ホラー嗜好性 ×洋ホラー嗜好性」 ( $\beta=-.046^*$ ) も有意となり、両嗜好性が高い者では PF 提示が喜びを相対的に抑制したことから、「ホラー通」への PF 提示は「ホラーの喜び」を減衰させることが示された。

さらに、「エネルギー覚醒+」 ( $AIC=162.98$ ,  $R^2=.222$ ) はスリル探求 ( $\beta=.094^*$ ), ストレス耐性 ( $\beta=.142^{***}$ ), HEMA の幸福追求 ( $\beta=.103^*$ ), 洋ホラー嗜好性 ( $\beta=.118^{**}$ ) が正の関連、PF ( $\beta=-.105^{**}$ ) が負の関連を示したことから、活動的な興奮はスリルへの接近傾向や快を志向する価値観と洋ホラー嗜好で促進される一方、PF の提示は活動的興奮を減衰させることが明らかになった。

## 主要引用文献

小林 美結菜・向居 暁 (2024). 怖いもの見たさと個人特性の関連性 中国四国心理学会第 80 回大会 (比治山大学)